

平成30年度（相模原総合高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、真摯な態度で指導に当たる。	日頃から不適切な言葉や指導、体罰等がないよう人権に配慮した行動を徹底した。生徒からの相談等がしやすい支援体制を整え、各年次の教育相談担当と養護教諭を中心に整備した。また、管理職への「報告・連絡・相談」を徹底した。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報を適切に取り扱い、情報の流出を未然に防止する。	行政課からの啓発資料や不祥事防止チェックシートを職員に配付して、意識啓発を図り、個人情報の漏洩を防止した。 また、個人情報を持ち出す際には管理職と相談し必要な手続きを徹底した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止	法規範を遵守し、交通事故の発生を未然に防止する。	交通事故や違反事例の解説等を実施し、交通事故防止の意識を高めた。 特に交通事故防止の研修会を増やし、最近の交通事故事例や新道路交通法「ながら運転」に対する意識をさらに高める事ができた。
業務執行体制の検証	業務執行にあたり、事故を未然に防ぐため情報を共有し、相互チェックを行う。	個人情報に係る業務はマニュアルに沿った運用を行い、重点事項は追加資料を配付し業務の点検・確認を徹底し不祥事防止に努めた。 また新たな処理システムを構築し定着させることでより単純化し、ミスを未然に防ぐ体制を整備した。
わいせつ・セクハラ行為の発生を未然に防止	人権意識を高めわいせつ・セクハラ行為の発生を未然に防止する。	スクールセクハラ、パワハラ防止のセルフチェックを実施し意識啓発を図った。 関連する新聞記事や啓発資料を活用し、人権に配慮した対応の徹底を図った。
不適正経理処理の再発防止、私費会計の適正執行	公費・私費・現金管理に関するトラブルや事故不祥事を未然に防止する。	「公費・私費会計基準」や「私費会計事務処理の手引」を参考に、適正な予算編成と公正な執行管理に努めた。外部監査など機会を通じて執行状況を確認し、指摘事項を整理・改善を図った。
入学者選抜の事故防止	入学者選抜業務を適切に行う。	確実な業務遂行を目標に分担を見直し、ハードとソフトの両面の改善を図り、組織的な業務を遂行した。
公務外非行	常に公務員の自覚をもち、県民の信頼を損なう行為を防止する。	新聞記事などの具体的な事例を通して、日常的に意識啓発に努めた。自己点検等を実施して、個々の職員が法令遵守（コンプライアンス）の意識を高めた。 個別面談などを通して、教育公務員としての意識啓発をする時間を設定した。
外部への適切な対応	外部との対応については適切に行う。	来校者などへの挨拶、迅速な電話対応と所属名、氏名を名乗るなど丁寧な対応を行うように努めた。
個々人の事故防止の意識向上	研修実施の蓄積と日々の環境整備を行う。	事故不祥事防止研修の専用ファイルを個々の職員に作成し、日々研修会の振り返りが図れるよう取組む。また各準備室の整理整頓に努めた。

○ 平成30年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と平成31年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

- ・今年度は、さまざまな機会や場面を利用して、個人に対して面接による不祥事防止に取り組を行った。特に全ての職員に対して8月・10月末から11月末にかけて2回にわたり、SNS、体罰はじめとする事故防止のための面接を積極的に実施した。限られた時間ではあったが、職員個々の状況に応じて適切な指導助言をすることができた。
- ・「事故・不祥事ゼロ」を目指して取り組みを行ってきたが、残念ながら年度途中で職員による交通事故が発生した。日ごろの事故・不祥事防止の啓発研修を継続的に行い、日常的な小さなことを積み上げて目標を達成することの大切さを感じている。
- ・定期試験・成績処理・私費会計処理・入学者選抜業務については、特に職員が一丸となって事故防止に取り組み、無事終えることができたことは、当然のこととは言え、何よりであった。
- ・次年度における取組予定
今年度も実施してきたが、グループリーダーである総括教諭を中心に、各グループ・教科・年次内での事故防止につとめるとともに、少人数によるグループ討議を進める。また、面接指導も強化し、職員の「心に響く」内容の事故防止研修の取組をさらに継続したい。